

### H17.10.3 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成17年10月3日(月) 14時30分～16時30分

議事概要：

表 H17.10.3 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1.前回検討会以降の経緯について	・前回検討会の経緯、課題対応、及びその後の文化庁協議、実験スケジュールの変更について説明した。	・今年度の放流の延期は、文化庁の許可の可否だけではなく、諸々の準備が間に合わなかったものと認識している。	・特になし
2.環境改善手法の検討について	・環境改善手法の検討内容について説明した。	・実験淵の選定について、生息していない淵であることを証明することは難しい。環境改善の実施後は、生息の確認のみではなく、再生産を確認する必要がある。	・事務局：生息していない淵かどうかの確認は、実験前にも実施する。また、評価は数年間モニタリング調査を行い、安定した個体群が定着するかどうかをチェックする。
3.環境改善工法の検討について	・環境改善の工法案、構造物の概要、妥当性の検証手法について説明した。	・フトン箆に用いる石は、なるべく大きな石が良いと感じる。 ・配置方法は、重ねるのではなく、平面的に並べた方がよい。独立して設置するよりも、流れに対して一定間隔で設置するなど、複数設置することにより流速の緩和効果などを期待するべきではないか。	・事務局：ご指摘を参考に今後検討する。
		・事前のチェックに当たっては、平常流量時だけではなく、洪水も想定すべきである。また、土砂の堆積や、周囲の瀬、水際部のチェックも想定すべきである	・事務局：設置前後の流速・流向変化は、平常時流量(低水、平水程度)のみならず、洪水時(1/10 確率流量)についても平面2次元モデルにより確認を行う予定である。また、実験淵における事前の地形・流速・河床材等の条件確認は、2mメッシュ単位で把握する予定である。
4.野外実験モニタリング計画について	・野外実験のモニタリング調査について概要を説明した。	・非生息淵に移入してきた場合、どこからの移入か判断できるのか。	・委員：遺伝子の解析により、上流か下流のどちらの可能性が高いか程度は判断できる。
		・淵の物理特性のモニタリングの調査時期は、年一回を定期的でよいのか？	・事務局：年最大程度の洪水が出た場合は、事後の確認を行う。
		・淵などが埋まった場合、その土砂の履歴が分からないか。	・事務局：地質的に違えば分かるが、現実的には困難と思われる。
		・モニタリング項目については了解した。	・モニタリング調査の詳細については、今後各委員にご確認して頂く。

5.減少要因の推定について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な変遷からのネコギギの減少要因の推定結果について説明した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
6.ダム事業に関わるネコギギへの影響検討について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境影響評価準備書の作成に向けたネコギギへの影響圏等の概要を説明した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討の内容は納得できない。</li> <li>・準備書は、重要と認識している。</li> <li>・合意に達するか解らないが、時間をかけて議論すべきである。</li> <li>・準備書対象外としている項目も、重要な内容が含まれている。</li> <li>・影響が小さいとしている直接改変以外の影響検討が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局：再度、委員に集まって頂き、議論を尽くしたい。</li> </ul>
7.情報公開について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報公開に関する枠組みを説明した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネコギギに特化するのではなく、豊川上流域の河川生態系全体を対象とするべき。</li> <li>・方向性は了解した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局：提示した方針で進める。</li> </ul>